



2026年2月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジアータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

チリ中部コンセプション近郊で大規模な森林火災が1月17日発生しました。高温と強風により延焼が拡大して約40,000ha（名古屋市郊外含む規模）を焼失しました。ピーク時は24ヶ所から出火していましたが、1月末には半分まで鎮火しました。2017年以来の大規模森林火災で、アラウコ、CMP Cの森林も多く含まれており、今後の森林から製材工場への丸太供給に不安を残す出来事です。幸いにチリ製材工場に被害はなく800棟を超える家屋が全焼しました。出火原因は95%近くが放火魔による反政府活動家の仕業とされています。今月下旬まではサマーシーズンなので、再度森林火災が起きやすい環境は続きます。3月11日就任する新大統領カストは現大統領のポリチッチと共に森林火災の対応に追われました。カスト新大統領はトランプ派ですが、新政権の閣僚メンバーは極右中心ではなく中道右派もおりバランスのとれた内閣になりそうです。チリ銅価格は過去最高の6ドルを超えた後、5.8ドルあたりで高値を維持しています。為替市場は更にペソがドルに対して買われており、900ペソから870ペソあたりまでの水準になっています。

2. 世界市況

韓国市場は中国向け輸出梱包材の数量が落ちてきており、販売数量は今年のピーク時から約20%下落しています。販売価格は昨年12月より回復傾向にあります。中近東市場はベネズエラの問題もあり、原油価格が上昇していますので、物流市場は今年になり昨年より市況が動いています。今年最初の2月下旬のバルク配船はアラウコとCMP Cの共同配船で完売をしています。次回は4月下旬のバルク配船で、日本向け5月バルク配船（2番船）前の配船スケジュールになる予定です。中国市場は今年15日から旧正月を迎えますが、旧正月前の駆け込み需要もなく静かな

市況で回復のシグナルは見えず、しばらく市況の低迷は継続する見込みです。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

12月バルク配船(5番船)は日本へ2月9日より川崎、名古屋、大阪へ寄港します。2026年3月配船(1番船)のバルク配船は名古屋港の荷あく業者減少により、船社との船運賃が急騰しており、また森林火災に伴いアラウコ直営工場への丸太供給遅れ、運搬コスト増、製材期間の制限等、2月生産で3月バルク配船の数量を確保することが困難になりました。残念ながら3月配船に関しては臨時でコンテナ配船に切り替えることとなります。次回5月配船(2番船)より再度バルク配船に戻します。コンテナ配船は3月第1週から4月第2週まで6週間連続でONE船を中心に日本向けへ安定供給を継続していく方針です。

b) 梱包市況

昨年後半からの輸出梱包市場は回復傾向にありますが、業種により梱需需要に差が出ている地域もあります。引き続きラジアータパイン、国産材、合板、LVL等を複合的に消費する梱包業者が多く、コストダウンに重点を置いて梱包資材を選択しているようです。3月に向けて梱包材の値上げをする動きが各地で出始めております。

国産材製材業者は人件費、燃料代等、製材コストが上昇をしており、今後の販売価格に転嫁をしていく方針で、既に仕組み材を中心に値上げを始めております。

チリ製材はこれから入港する5番船の為替が157-158円平均ですので、輸入コストは直近3船では一番高い製材になります。各社は3月以降の販売価格に転換をしていく方針で梱包市場に理解を求めていく姿勢です。

1月後半より為替市場に変化が出てきており、数年続いたドル高円安相場からドル安円高相場へ転換をしているように思えます。2月8日の衆院議員選挙の結果によっては、再度為替がドル高円安に向かう相場も想定されます。しかし、世界市場で今後の日本経済に期待をする方向性が明確になると円高ドル安が更に進行することもありそうです。各社の輸入材コストが為替により下がることは国内市場で販売をしていく上において大きなサポートになります。

アラウコは3月配船(1番船)をバルク配船からコンテナ配船へ切り替えたことにより、今月入港する12月船(5番船)を最後に4月から5月に入港する船は全てコンテナ船になります。チリ出港から約50-55日で日本の各港へデリバリーを計画しています。コンテナ配船になっても安定供給により各社の在庫管理に不備が生じないようにコンテナ配船スケジュールを管理をしていく方針です。

次回のバルク配船は5月配船(2番船)になりますので、日本入港は8月お盆休み前の7月上旬から川崎、名古屋、大阪を寄港する計画です。

以 上